

平成 26 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、政府の各種経済政策を背景に企業収益や雇用情勢の改善傾向が見られたものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動による個人消費の停滞や、中国を始めとする新興国の成長減速等の不安要素を抱え、先行き不透明感が解消されないまま推移しました。

このような状況の中、当社グループでは、JFN38局の全国ネットワークを活かし、ソーシャルメディアを始めとする統合メディア戦略に引き続き取り組んだ結果、主力の放送事業についてはタイム収入・スポット収入とも前期実績を上回り増収となりましたが、企画・制作事業において予定していた大型イベントの開催中止の影響等により売上規模が前年同期を下回ることとなりました。この結果、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は86億6千9百万円（前年同期比3.3%減）となりましたが、放送事業収入の増加やインフォメーションプロバイダー事業の収益性の向上により営業利益は7億7千3百万円（前年同期比17.8%増）、経常利益は8億7千9百万円（前年同期比6.5%増）、中間純利益は5億8千3百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

当社単体の業績については、売上高が66億6千5百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益が6億1千5百万円（前年同期比3.8%増）、経常利益が7億6千9百万円（前年同期比11.9%増）、中間純利益が5億6百万円（前年同期比12.3%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

<放送事業活動>

当社は、行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」、「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を放送活動の基軸とし、「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」を実践しております。

平成26年4月改編では「共感コミュニティの形成」を制作方針に据え、平日ワイド番組を中心に「リスナーとともに創造する」コミュニケーション施策を推し進めました。朝のワイド番組「クロノス」（月～金曜6:00～9:00）では、FIFAワールドカップブラジル大会に向けた日本代表応援企画として、THE BOOMの名曲「風になりたい」を番組リスナーのコーラス参加で新たにレコーディングし、TOKYO FM日本代表応援ソングを完成させました。また「Skyrocket Company」（月～木曜17:00～19:00 金曜17:00～17:25）では、20,000ダウンロードを記録した番組公式アプリの活用や定期的な番組イベントの開催などでリスナー・コミュニティを強化しております。

人気アーティスト桑田佳祐が出演する「やさしい夜遊び」（土曜23:00～23:55 全国ネット）は7月に放送1,000回を迎え、これを記念して7月11日、12日の両日にわたりTOKYO FMホールでリスナー招待のプレミアム大感謝祭ライブを開催、サザンオールスターズの名曲からビートルズのカバーなど幅広い豪華な選曲でリスナーを熱狂させました。

当社は東日本大震災発生以来“3.11を風化させない”という思いと共に被災地に寄り添った取材活動を継続しており、復興に向けて生きる人々の姿を紹介するレギュラー番組「LOVE&HOPE」（月～金曜6:30～6:40 全国ネット）を放送しています。震災3年目を迎えた今年3月11日にはその集大成としての特別番組「これからを見つめて～LOVE&HOPE 3年目の春だより」（3月11日 13:00～15:45 全国ネット）を放送しました。被災地の人々の故郷を愛し大切にす気持ちを丁寧に取材し伝えることで全

国のリスナーの感動を呼んだこの番組は、6月4日に開催された第51回ギャラクシー賞（放送批評懇談会）贈賞式でラジオ部門大賞に選ばれ、震災発生以来一貫した「ヒューマンコンシャス」に根ざした取材報道活動が高く評価されました。さらに、同番組は11月5日、第10回日本放送文化大賞（社団法人日本民間放送連盟）のラジオ部門準グランプリにも選出されました。

なお、前述のギャラクシー賞には同じく当社制作「前略倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの」（3月23日 19:00～19:55 全国ネット）もラジオ部門選奨を受賞し、ラジオ部門入賞8作品のうち2作品を当社が占める結果となりました。

以上のような活動を積み重ねた結果、ビデオリサーチ社による8月の首都圏聴取率調査において当社はコアターゲットであるM1・F1（20歳～34歳男女）区分、20代男女区分で在京局中単独第1位を獲得しました。さらに、12～59歳個人総合でも同率1位となり、コアターゲットを軸にその前後の世代にも支持が広がっています。

一方、「V-Lowマルチメディア放送」に関しては、昨年度より総務省がハード事業者を募集、本年6月25日に開催された電波監理審議会からの答申を受け、7月15日に総務大臣より当社グループの株式会社VIPに対し認定証が交付されました。

これと並行して、株式会社VIPによるハード事業、各地域ソフト事業、受信端末の普及活動等を統括し、総合的に推進する持株会社として平成26年1月に設立したBIC株式会社の第三者割当増資を進めました。多彩な産業分野の企業から出資を得た結果、9月末日現在、BIC株式会社の資本金・資本準備金の合計は56億円を超え、さらに10月には革新的事業の育成を目的とした官民共同ファンドである株式会社産業革新機構より10億円の資本参画を得ております。これを受け、今期下期に予定されているソフト事業者募集に向けて準備を進めております。

制度整備の進捗に合わせ、受信端末開発にも拍車がかかっております。また、幅広い業種の事業者が連携し新規サービスを開発する場である「マルチメディア放送ビジネスフォーラム」も7月に第7期がスタートし、平成27年度第1四半期中の放送開始を目指し各方面で着実に準備を進めております。

<企画・制作事業活動>

当社のステーションメッセージ「アース&ヒューマンコンシャス」を象徴するイベントとして毎年4月に世界に向け発信しているアースデーコンサートは今年で25回目を迎えました。今回は、アジアの人々とアース&ヒューマンコンシャスの想いを共有して行くために、アジア諸国のFM局と連携の絆を深め、日本の人気バンドASIAN KUNG-FU GENERATIONとストレイテナーの2組がアジア各国で地元のバンドと共演するツアーを展開、その集大成として4月21日東京国際フォーラムに台湾と韓国で共演したバンドを迎え、「EARTH×HEART LIVE 2014」と銘打ちアジアの環境問題をテーマにライブを行いました。ライブの様子はJFN38局に加えアジアの提携局を始め世界各国で放送されたほか、世界最大のインターネットラジオ・プラットフォームTuneIn Radioを通じて海外配信されました。会場募金や番組に寄せられた募金はコンサートの収益の一部とともに「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」に寄付されました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の一環として平成22年から展開している社会貢献活動「HelloSmile（子宮頸がん予防啓発プロジェクト）」では、4月に「HelloSmile Live 2014」を初の地方公演となる福岡で開催、話題のアーティストMay J.が予防啓発を呼びかけました。

その他、8月にはLADY GAGA、長渕剛、9月にはSMAP、山下達郎等、人気アーティストのコンサートを開催し、大きな反響を得たものの、売上高の面ではポール・マッカ

ートニーの再来日コンサートが本人の体調不良のため公演中止となる等、計画していた大型イベントが実施できなかつた影響により減収となりました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業であるモバイル端末向けコンテンツ配信事業において、スマートフォン向けサービスの拡充に重点的に取り組んでまいりましたが、今期上期においては、スマートフォン公式サイトでの自社コンテンツ配信が堅調に推移したことに加え、キャリアが運営する定額アプリ使い放題サービス（NTTドコモ「スゴ得」、KDDI「auスマートパス」）へのコンテンツ提供による配分収入が売上の拡大に貢献しました。また、新たな試みとして、コミュニケーションアプリ「LINE」向けに自社オリジナルのスタンプを配信するサービスを5月より開始、さらに今後拡大が期待されるスマートフォン用アクセサリ市場に向けて商品開発を行う等、収益基盤の拡大に取り組みました。

また、企業向けアプリやWEBサービス等の開発受託を行うソリューション事業部門においてもクライアントからの受注が堅調に推移し、売上を伸ばしました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「JFNセンター」、「メディアセンター」等による賃貸事業を展開いたしました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM少年合唱団は、新国立劇場の「カヴァレリア・ルスティカーナ」、「道化師」への出演や、ロックバンド「flumpool」のベストアルバムのコーラス録音に参加するなど、様々なシーンで活動の幅を広げることができました。

その他、直営2店舗によるレストラン事業を展開いたしました。

前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成26年4月1日～平成26年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成27年3月期中間期 (H26. 4. 1～H26. 9. 30)	平成26年3月期中間期 (H25. 4. 1～H25. 9. 30)	前年同期比
売上高	8,669,045	8,960,414	96.7%
売上原価	5,170,567	5,672,238	91.2%
売上総利益	3,498,477	3,288,175	106.4%
販売費及び一般管理費	2,724,589	2,631,166	103.6%
（内のれん償却額）	45,376	64,152	70.7%
営業利益	773,888	657,008	117.8%
（売上高営業利益率）	8.9%	7.3%	
営業外収益	137,861	200,366	68.8%
営業外費用	32,289	31,683	101.9%
経常利益	879,460	825,691	106.5%
（売上高経常利益率）	10.1%	9.2%	
特別利益	17,473	16,351	106.9%
特別損失	250	18,783	1.3%
税金等調整前中間純利益	896,683	823,260	108.9%
法人税、住民税及び事業税	74,451	57,297	129.9%
法人税等調整額	226,560	209,611	108.1%
少数株主損益調整前 中間純利益	595,671	556,351	107.1%
少数株主利益	12,177	11,282	107.9%
中間純利益	583,494	545,068	107.0%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

平成26年4月1日～平成26年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	平成27年3月期中間期 (H26.4.1～H26.9.30)	平成26年3月期中間期 (H25.4.1～H25.9.30)	前年同期比
売上高	6,665,122	7,047,333	94.6%
売上原価	4,026,444	4,487,749	89.7%
売上総利益	2,638,678	2,559,584	103.1%
販売費及び一般管理費	2,023,213	1,966,688	102.9%
営業利益	615,464	592,895	103.8%
(売上高営業利益率)	9.2%	8.4%	
営業外収益	181,435	124,094	146.2%
営業外費用	27,569	29,544	93.3%
経常利益	769,330	687,446	111.9%
(売上高経常利益率)	11.5%	9.8%	
特別利益	500	12,268	4.1%
特別損失	250	16,957	1.5%
税引前中間純利益	769,580	682,756	112.7%
法人税、住民税及び事業税	57,150	49,297	115.9%
法人税等調整額	205,664	182,275	112.8%
中間純利益	506,764	451,183	112.3%

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

平成26年4月1日～平成26年9月30日

(単位:千円)

	平成27年3月期中間期 (H26.4.1～H26.9.30)	平成26年3月期中間期 (H25.4.1～H25.9.30)	前年同期比
売上高	6,665,122	7,047,333	94.6%
放送事業収入	6,121,796	6,049,219	101.2%
放送収入	4,189,863	4,124,488	101.6%
タイム放送料	3,031,673	2,994,408	101.2%
スポット放送料	1,158,189	1,130,079	102.5%
制作収入	1,084,355	1,051,664	103.1%
その他	847,576	873,066	97.1%
企画事業収入	217,141	669,119	32.5%
賃貸事業収入	281,314	280,468	100.3%
その他事業収入	44,870	48,526	92.5%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

50期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

50期	49期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	7	東急エージェンシー
6	6	第一通信社
7	9	オフィスフラッグス
8	5	クオラス
9	-	ユータムエンタープライズ
10	16	読売エージェンシー

<タイム>

50期	49期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	5	第一通信社
6	6	オフィスフラッグス
7	7	東急エージェンシー
8	9	クオラス
9	16	読売エージェンシー
10	55	朝日広告社

<スポット>

50期	49期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	-	ユータムエンタープライズ
5	18	エスプロックス
6	5	放送文化事業
7	6	大日本印刷
8	20	国宣社
9	18	オリコム
10	4	クオラス

平成27年3月期 中間決算短信

平成26年11月26日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経営管理室長 (氏名) 東 和志 TEL (03) 3221-0080

配当支払開始予定日 平成26年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期中間期の連結業績 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期中間期	8,669	△3.3	773	17.8	879	6.5	583	7.0
26年3月期中間期	8,960	0.8	657	4.2	825	16.6	545	29.2

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
27年3月期中間期	651	26	—	—
26年3月期中間期	608	37	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
27年3月期中間期	36,185		27,414		74.9	
26年3月期	36,645		27,658		71.7	

(参考) 自己資本 27年3月期中間期 27,087百万円 26年3月期 26,274百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
26年3月期	60	00	60	00	120	00
27年3月期	60	00				
27年3月期 (予想)			60	00	120	00

3. その他

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 有 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | 無 |
| ④ 修正再表示 | 無 |

(2) 発行済株式数 (普通株式)

- | | | | | |
|----------------------|-----------|----------|-----------|----------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 27年3月期中間期 | 900,000株 | 26年3月期 | 900,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 27年3月期中間期 | 4,057株 | 26年3月期 | 4,057株 |
| ③ 期中平均株式数 (中間期) | 27年3月期中間期 | 895,943株 | 26年3月期中間期 | 895,943株 |

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期中間期の個別業績 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期中間期	6,665	△5.4	615	3.8	769	11.9	506	12.3
26年3月期中間期	7,047	1.2	592	8.7	687	0.5	451	1.6

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
27年3月期中間期	563	07
26年3月期中間期	501	32

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期中間期	35,399	27,698	78.2
26年3月期	34,873	26,962	77.3